

申3号 「中編成ワンマン運転」拡大に伴う

「営業列車でのハンドル訓練の中止」

を求める緊急申し入れ

地本は、2022年6月29日「中編成ワンマン運転の拡大」の提案を受け、常磐線水戸～いわき間への中編成ワンマン運転拡大の考え方が示されました。その中で、乗務員のハンドル訓練は試運転列車ではなく営業列車で行うことが明らかになりました。一方で、車両運用上の調整はあるにせよ、試運転列車で訓練を行うことも可能であることも会社回答で明らかになっています。



会社提案時の情報 昨年度No.151、152

会社は営業列車で訓練を実施することについて…

- 臨時列車を新たに設定する必要がない。
- 訓練を毎日実施することが可能になる。
- 水戸線での訓練時「実際の乗降がリアルな感覚がわからない」という声が上がっていた。

と回答しています。

しかし「営業列車での訓練」に対して私たちはこう考える！

- 水戸線の訓練では、基本動作、機器の操作、(実際、ドアの傘などを挟むなどして)モニターの見え方や死角などの視認性の確認など、多岐にわたり技術の習得を行ってきた。今回は、これらを十分に出来ない。
- 車掌も乗務するが、出発合図をブザー式に変更をし、車掌は状態監視を行うがドア扱いは行わない。しかし、安全確認の必要性からホーム上に降り、取り残される可能性があり、事故につながる可能性がある。
- 営業列車に遅れが発生することは火を見るより明らか、お客さまの信頼低下を招くことはあってはならない。

申し入れ項目

1. 常磐線における営業列車でのハンドル訓練を中止し、試運転列車での訓練を実施すること

お客さまの信頼低下、危険性を省みず、社員の技能習熟を度外視している！
施策実施ありきの姿勢は認められない！